

デーヴォ ガイド



2023.5.8-14

But **grow** in the grace and knowledge of our Lord and Savior Jesus Christ. To him be glory both now and forever! Amen. II Peter 3:18

L T G ガイド

- ①お互いへの感謝と誉めることを分かち合しましょう。(2~3つ)
- ②1週間の罪を言い表して悔い改め、互いに祈りましょう。
- ③礼拝メッセージの分かち合いをします。
礼拝メッセージの分かち合いが難しい場合はディポジションの分かち合い(なるべく短く)
- ④預言の祈り(主の御心を宣言して祈り)をします。

セル ガイド

- ①祈り、賛美によって主がここにいてくださることを信じ、聖霊様があがめます。
- ②互いの存在を感謝し、尊敬するところを分かち合しましょう。
- ③ディポジションの分かち合いをします。
- ④セルの目的と働きについてみなで共有して、祈り、遣わされて行きましょう。

家族礼拝ガイド

年長のクリスチャンがリードしてください。進め方にはいろいろな意見が出るかもしれませんが、「主に期待する」信仰が最も大切です。いつもの家族でいいのです。

- ①この1週間で神様はすばらしいと感じたのはどんなこと?
- ②この1週間でお互いにどんなことを感謝しますか?(または誉めたいですか?)1つだけ。
- ③聖書のみことばから、どんな実践をして、またどんな恵みがありましたか?
- ④互いの必要のために祈りましょう。

礼拝メッセージフィードバック

<今日の聖書箇所は…>

①神のみこころは?(信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど)

②どんな思いになりましたか?(感情や願いなど)

③生き方にどう適用しますか?(あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか?)

④この世にあって何を実践しますか?



15:13 ダビデのところに告げる者が来て、「イスラエルの人々の心はアブサロムになびいています」と言った。

15:14 ダビデは、自分とともにエルサレムにいる家来全員に言った。「さあ、逃げよう。そうでないと、アブサロムから逃れる者はいなくなるだろう。すぐ出発しよう。彼がすばやく追いついて、私たちに害を加え、剣の刃でこの都を討つといけないから。」

15:15 王の家来たちは王に言った。「ご覧ください。私たち、あなたのしもべどもは、王様の選ばれるままにいたします。」

15:16 王は出て行き、家族のすべての者も王に従った。しかし王は、王宮の留守番に十人の側女を残した。

15:17 王と、王に従うすべての民は、出て行って町外れの家にとどまった。

15:18 王のすべての家来は王の傍らを進み、すべてのクレタ人と、すべてのベレテ人、そしてガテから王について来た六百人のガテ人がみな、王の前を進んだ。

15:19 王はガテ人イタイに言った。「どうして、あなたもわれわれと一緒に行くのか。戻って、あの王のところにとどまりなさい。あなたは異国人で、自分の国からの亡命者なのだから。」

15:20 あなたは昨日来たばかりなのに、今日、あなたをわれわれと一緒にさまよわせるのは忍びない。私はこれから、あてどもなく旅を続けるのだから。あなたの兄弟を連れて戻りなさい。恵みとまことがあなたとともにあるように。」

15:21 イタイは王に答えて言った。「【主】

は生きておられます。そして、王様も生きておられます。王様がおられるところに、生きるためでも死ぬためでも、このしもべも必ずそこにいます。」

15:22 ダビデはイタイに言った。「では、進んで行きなさい。」ガテ人イタイは、彼の部下全員と、一緒にいた子どもたち全員を連れて、進んでいった。

15:23 この民がみな進んで行くとき、国中は大きな声をあげて泣いた。王はキデロンの谷を渡り、この民もみな、荒野の方へ渡って行った。

ダビデのこの苦難は、かつて彼がウリヤの妻を横取りして、彼を死に追いやったことの報いです。ダビデはそれを知っていたでしょうが、それでも彼は最善をつくします。自分の身から出た錆のような出来事があるかもしれませんが、それでも主は愛の神であり続けてくださいます。人生を捨てることなく、主の憐れみに頼って行きましょう。

ダビデの最善はその生き方にも現れています。彼はガテ人たちのことを思いやり、自分から去るように勧めます。一人でも味方が欲しいときではありましたが、愛を優先させたのです。そのようなダビデの人柄を慕ってのことでしょう。彼らはダビデの助けとなったのです。

苦しいときこそその本性が出るものです。主の愛とその希望にいつも包まれて、愛を第一にしてゆきましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



9日 火曜

Ⅱ サムエル

15:24 見よ、ツアドクも、すべてのレビ人と一緒に神の契約の箱を担いでいた。民がみな都から出て行ってしまいうまで、彼らは神の箱を降ろし、エブヤタルがささげ物を献げた。
15:25 王はツアドクに言った。「神の箱を都に戻さない。もし私が【主】の恵みをいただくことができれば、主は、私を連れ戻し、神の箱とその住まいを見させてくださるだろう。」

15:26 もし主が『あなたはわたしの心にかかわない』と言われるなら、どうか、主が良いと思われることをこの私にしてくださいよう。」

15:27 王は祭司ツアドクに言った。「あなたは先見者ではないか。安心して都に帰りなさい。あなたがたの二人の息子、あなたの息子アヒマアツとエブヤタルの息子ヨナタンも、あなたがたと一緒に。」

15:28 見なさい。私は、あなたがたから知らせのことばが来るまで、荒野の草原でゆっくり待とう。」

15:29 ツアドクとエブヤタルは神の箱をエルサレムに持ち帰り、そこにとどまった。

15:30 ダビデはオリーブ山の坂を登った。彼は泣きながら登り、その頭をおおい、裸足で登った。彼と一緒にいた民もみな、頭をおおい、泣きながら登った。

15:31 そのときダビデは、「アヒトフェルがアブサロムの謀反に荷担している」と知らされた。ダビデは言った。「【主】よ、どうかアヒトフェルの助言を愚かなものにしてください。」

15:32 ダビデが、神を礼拝する場所になって



いた山の頂に来たとき、見よ、アルキ人フシャイが上着を引き裂き、頭に土をかぶってダビデに会いに来た。

15:33 ダビデは彼に言った。「もしあなたが私と一緒に行くなら、あなたは私の重荷になる。」

15:34 しかしもし、あなたが都に戻って、アブサロムに『王よ、私はあなたのしもべになります。これまであなたの父上のしもべであったように、今、私はあなたのしもべになります』と言うなら、あなたは私のためにアヒトフェルの助言を打ち破ることになる。

15:35 あそこには祭司のツアドクとエブヤタルも、あなたと一緒にいるではないか。あなたは王の家から聞くことは何でも、祭司のツアドクとエブヤタルに告げるのだ。

15:36 見よ、あそこには、彼らの二人の息子、ツアドクの子アヒマアツとエブヤタルの子ヨナタンが彼らとともにいる。二人をよこして、あなたがたが聞いたことを残らず私に伝えてくれ。」

15:37 ダビデの友フシャイは都に帰った。そのころ、アブサロムもエルサレムに着いた。

ダビデは神の回復を願っていましたから、目先の小さなことを求めませんでした。神の箱は心の支えと感じるかもしれませんが、それよりも完全な勝利を願っていたのです。気休めを求めませんでした。

私たちも同じです。気休めには本当の解決を見失うことにもなりかねません。主のみこころならば本質的な解決があるはずですから、それを求めましょう。

そこでダビデは前向きな祈りをすることができました。「アヒトフェルの助言を愚かなものに」

という祈りです。その祈りがあったので、彼はフシャイに妙案を与えることができました。どんな中でも主の根本的な勝利を信じて求め、それによる祈で、現実的な知恵をいただきましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



10日 水曜

Ⅱ サムエル

16:1 ダビデは山の頂から少し下った。見ると、メフィボシエテのしもベツィバが王を迎えに来ていた。彼は、鞍を置いたくびきのろばに、パン二百個、干しぶどう百房、夏の果物百個、ぶどう酒一袋を載せていた。

16:2 王はツィバに言った。「これらは何のためか。」ツィバは言った。「二頭のろばは王の家族がお乗りになるため、パンと夏の果物は若者たちが食べるため、ぶどう酒は荒野で疲れた者が飲むためです。」

16:3 王は言った。「あなたの主人の息子はどこにいるのか。」ツィバは王に言った。「今、エルサレムにとどまっております。あの方は、『今日、イスラエルの家は、父の王国を私に返してくれる』と言っておりました。」

16:4 王はツィバに言った。「見よ、メフィボシエテのものはみな、あなたのものだ。」ツィバは言った。「王様。あなた様のご好意をいただくことができますように、伏してお願いたします。」

16:5 ダビデ王がバフリムまで来ると、見よ、サウルの家の一族の一人が、そこから出て来た。その名はゲラの子シムイで、盛んに呪いのことばを吐きながら出て来た。

16:6 彼は、ダビデとダビデ王のすべての家来たちに向かって石を投げつけた。兵たちと勇士たちはみな、王の右左にいた。

16:7 シムイは呪ってこう言った。「出て行け、出て行け。血まみれの男、よこしまな者よ。」

16:8 【主】がサウルの家のすべての血に報いたのだ。サウルに代わって王となったおまえに対して。【主】は息子アブサロムの手に王位を渡した。今、おまえはわざわざいにある

だ。おまえは血まみれの男なのだから。」

16:9 ツェルヤの子アビシャイが王に言った。「この死んだ犬めが、わが主君である王を呪ってよいものでしょうか。行って、あの首をはねさせてください。」

16:10 王は言った。「ツェルヤの息子たちよ。これは私のことで、あなたがたに何の関わりがあるのか。彼が呪うのは、【主】が彼に『ダビデを呪え』と言われたからだ。だれが彼に『おまえは、どうしてこういうことをするのだ』と言えるだろうか。」

16:11 ダビデはアビシャイと彼のすべての家来たちに言った。「見よ。私の身から出た私の息子さえ、私のいのちを狙っている。今、このベニヤミン人としては、なおさらのことだ。放っておきなさい。彼に呪わせなさい。【主】が彼に命じられたのだから。」

16:12 おそらく、【主】は私の心をご覧になるだろう。そして【主】は今日の彼の呪いに代えて、私に良いことをもって報いてくださるだろう。」

16:13 ダビデとその部下たちは道を進んで行った。シムイは、山の中腹をダビデと並行して歩きながら、呪ったり、石を投げたり、土のちりをかけたりにしていた。

16:14 王も、王とともにいった兵もみな、疲れたのでそこで一息ついた。

人が苦難に会うときには、様々な人が近づいて来るものです。ツィバもその一人で、彼は主人であるメフィボシエテを欺いて、ダビデに取り入ろうとします。ダビデにはことの真相を確かめる術はないのですが、早まった考えをせずにすみませんでした。祈り深く、また復讐心のない人であったからです。



ダビデを呪うシムイに対しても、復讐せず、むしろ神様からの愛の鞭のように、考えています。どんなこともすぐに反応してしまわないで、祈りの一呼吸をおいてから、主に聞いて、心を整えていただいて、そしてみこころを行いましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



11日 木曜

Ⅱ サムエル

16:15 アブサロムとすべての民、イスラエルの人々はエルサレムに入った。アヒトフェルも一緒であった。

16:16 ダビデの友アルキ人フシャイがアブサロムのところに来たとき、フシャイはアブサロムに言った。「王様万歳。王様万歳。」

16:17 アブサロムはフシャイに言った。「これが、あなたの友への忠誠の表れなのか。なぜあなたは、あなたの友と一緒に行かなかったのか。」

16:18 フシャイはアブサロムに言った。「いいえ、【主】と、この民、イスラエルのすべての人が選んだ方に私はつき、その方と一緒にとどまります。」

16:19 また、私はだれに仕えるべきでしょうか。私の友の子に仕えるべきではありませんか。私はあなた様の父上に仕えたように、あなた様にもお仕えいたします。」

16:20 アブサロムはアヒトフェルに言った。「あなたがたで相談しなさい。われわれは、どうしたらよいだろうか。」

16:21 アヒトフェルはアブサロムに言った。「父上が王宮の留守番に残した側女たちのところにお入りください。全イスラエルが、あなたは父上に憎まれるようなことをされたと聞くでしょう。あなたに、くみする者はみな、勇気を出すでしょう。」

16:22 アブサロムのために屋上に天幕が張られ、アブサロムは全イスラエルの目の前で、父の側女たちのところに入った。

16:23 当時、アヒトフェルの進言する助言は、人が神のことばを伺って得ることばのようであった。アヒトフェルの助言はすべて、ダビ



デにもアブサロムにもそのように思われた。

アブサロムはダビデの息子でありながら、王である父に対して謀反を起こしました。別の母から生まれた兄弟アムノンが、自分の妹タマルに乱暴したことを恨んでアムノンを殺したのですが、それでダビデから疎まれていたからです。

そもそもそのような家族の不和はダビデの罪が原因で生まれたものです。ダビデは不倫による妊娠が発覚しないようにと画策し、最後には相手の夫を死に追いやったのですが、それに関して神様はどのように、彼に罪の報いをすると言言なさっていたのです。

アヒトフェルがアブサロムに進言した、この恥ずべき行いは、当時の異教の征服者がよくやったことで、全権者を辱めることで、その支配を明確にしたものです。これもまた神の宣言が実現してしまったものです。

主はダビデの罪を赦してはくさいましたから、神様が彼を滅ぼすことはありませんでした。しかしその罪の報い、すなわち罪の行いから影響された結果は受ける必要があるのです。たとえば、主に罪を赦しを願って悔い改めても、しかしその罪ゆえに悲しんだ人々への償いは残されています。または負債は残されています。

ですから悔い改めたなら、それにふさわしい実を結ぶことが求められます。勇気のいることです。だからこそ主は大いに働いてくださいます。勇気を出して従った者を守ってください。予期せぬ祝福をくださいます。悔い改めの実を結びましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



➤ 12日 金曜

Ⅱ サムエル



17:1 アヒトフェルはアブサロムに言った。「私に一万二千人を選ばせてください。私は今夜すぐに、ダビデの後を追います。」

17:2 私は、彼が疲れて気力を失っている間に、彼を襲い、彼を震え上がらせます。彼と一緒にいるすべての民は逃げるでしょう。私は王だけを打ち殺します。

17:3 私は兵全員をあなたのもとに連れ戻します。すべての者が帰って来るとき、民はみな、穏やかになるでしょう。あなたが求めているのは、ただ一人の人だけですから。」

17:4 このことは、アブサロムとイスラエルの全長老の気に入るところとなりました。

17:5 アブサロムは言った。「アルキ人フシャイを呼び出し、彼の言うことも聞いてみよう。」

17:6 フシャイがアブサロムのところに来ると、アブサロムは彼に言った。「アヒトフェルはどのように語ったが、われわれは彼のことに従ってよいものだろうか。もしそうでなければ、あなたが語りなさい。」

17:7 フシャイはアブサロムに言った。「このたびアヒトフェルの進言した助言は良くありません。」

17:8 フシャイは言った。「あなたは父上とその部下が戦士であることをご存じです。彼らは、野で子を奪われた雌熊のように気が荒くなっています。また、あなたの父上は戦いに慣れた方ですから、兵たちと一緒に夜を過ごすさないでしょう。」

17:9 きっと今、洞穴かどこか、そんな場所に隠れているに違いありません。もし、兵たちのある者が最初に倒れたら、それを聞く者は

『アブサロムに従う兵たちのうちに、打たれた者が出た』と言うでしょう。

17:10 たとえ、獅子のような心を持つ力ある者でも、気がくじけます。全イスラエルは、あなたの父上が勇士であり、彼とともにいる者が力ある者であることをよく知っています。

17:11 私の助言はこうです。全イスラエルをダンからベエル・シェバに至るまで、海辺の砂のように数多くあなたのところに集めて、あなた自身が戦いに出られることです。

17:12 われわれは彼が見つかる場所に行って、そこで露が地面に降りるように彼を襲うのです。そうすれば、彼や、ともにいるすべての兵たちのうちには、一人も残る者はありません。

17:13 もし彼がどこかの町に入るなら、イスラエル中の者がその町に縄をかけ、その町を川まで引きずって行って、そこに一つの石ころも残らないようにしましょう。」

17:14 アブサロムとイスラエルの人々はみな言った。「アルキ人フシャイの助言は、アヒトフェルの助言よりも良い。」これは、【主】がアブサロムにわざわざをもたらそうとして、【主】がアヒトフェルのすぐれた助言を打ち破ろうと定めておられたからである。

ダビデによってアブサロム側に潜入して様子を探っていたフシャイにチャンスがおとずれました。アブサロムはアヒトフェルの進言によってダビデを撃破しそうになったのですが、フシャイは上手にそれに反論し、むしろダビデ側に有利にことを運ぶようにしました。

罪の報いを自ら受けるダビデですが、このよう

に思いもよらぬところで、神様の助けがありました。どんなに信仰のスランプの状態でも、主の最終的なあわれみは残っているのですから、それを頼りにして主に求めていきましよう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



➤ 13日 土曜

Ⅱ サムエル

17:15 フシャイは祭司ツァドクとエブヤタルに言った。「アヒトフェルは、アブサロムとイスラエルの長老たちにこれこれの助言をしたが、私は、これこれの助言をした。

17:16 今、急いで人を遣わして、ダビデに、『今夜は荒野の渡し場で夜を過ごしてはいけません。必ず、あちらへ渡って行かなければなりません。そうでないと、王をはじめ、一緒にいる民全員にわざわいが降りかかるでしょう』と告げなさい。」

17:17 ヨナタンとアヒアマツはエン・ロゲルにとどまっていたが、一人の女奴隷が行って彼らに告げ、彼らがダビデ王に告げに行くようになっていた。これは、彼らが都に入るのを見られないようにするためであった。

17:18 ところが、ある若者が彼らを見て、アブサロムに告げた。彼ら二人は急いで去り、パブリムに住むある人の家に行った。その人の庭に井戸があったので、彼らはその中に降りた。

17:19 その人の妻は覆いを持って来て、井戸の口の上に広げ、その上に麦をまき散らしたので、だれにも知られなかった。

17:20 アブサロムの家来たちが、その女の家に来て言った。「アヒアマツとヨナタンはどこにいるのか。」女は彼らに言った。「あの人たちは、ここを通り過ぎて川の方へ行きました。」彼らは、捜したが見つけることができなかったので、エルサレムへ帰った。

17:21 彼らが去った後、二人は井戸から上がって来て、ダビデ王に知らせに行った。彼らはダビデに言った。「さあ、急いで川を渡り始めてください。アヒトフェルがあなたが

たに対して、これこれのことを進言したからです。」

17:22 ダビデと、ダビデのもとにいたすべての者たちは、ヨルダン川を渡り始めた。夜明けまでにヨルダン川を渡りきれなかった者は一人もいなかった。

17:23 アヒトフェルは、自分の助言が実行されないのを見ると、ろばに鞍を置いて自分の町の家に帰り、家を整理して首をくくって死んだ。彼は彼の父の墓に葬られた。

17:24 ダビデがマハナイムに着いたとき、アブサロムは、彼とともにいるイスラエルのすべての人々とヨルダン川を渡った。

17:25 アブサロムはアマサをヨアブの代わりに軍団長に任命していた。アマサは、アスリエル人イテラという人の息子で、イテラは、ヨアブの母ツェルヤの妹ナハシュの娘アビガルと結婚していた。

17:26 イスラエルとアブサロムはギルアデの地に陣を敷いた。

17:27 ダビデがマハナイムに来たとき、アンモン人でラバ出身のナハシュの息子シヨビと、ロ・デバル出身のアンミエルの息子マキルと、ロゲリム出身のギルアデ人バルジライは、

17:28 寝台、鉢、土器、小麦、大麦、小麦粉、炒り麦、そら豆、レンズ豆、炒り豆、

17:29 蜂蜜、凝乳、羊、チーズを、ダビデと彼とともにいた民の食糧として持って来た。彼らが「民は荒野で飢えて疲れ、渴いています」と言ったからである。

アブサロムがダビデを襲う、その危機が迫っていることを、ツァドク、エブヤタル、ヨナタン、アヒアマツが伝えるようになっていましたが、ヨ



ナタンとアヒアマツは見つかりそうになりました。しかし家の主人の機転によって助かり、それはダビデに伝えられたのです。

罪あるダビデでしたが、主が助けようとするならば、何があっても守ってくださるのだということが分ります。愛を受ける価値のないものだからこそ、主の無条件の愛により頼みましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



18:1 ダビデは自分とともにいる兵を調べて、彼らの上に千人隊の長、百人隊の長を任命した。

18:2 ダビデは兵の三分の一をヨアブの指揮のもとに、三分の一をヨアブの兄弟である、ツェルヤの子アビシャイの指揮のもとに、三分の一をガテ人イタイの指揮のもとに配置した。王は兵たちに言った。「私自身も、あなたがたと一緒に出陣する。」

18:3 兵たちは言った。「王様が出陣してはいけません。私たちがどんなに逃げても、彼らは私たちのことは何も思わないでしょう。私たちの半分が死んでも、彼らは私たちのことは心に留めないでしょう。しかし、今、あなたは私たちの一万人に当たります。今、あなたは町にいて私たちを助けてくださるほうがよいのです。」

18:4 王は彼らに言った。「あなたがたが良いと思うことを、私はしよう。」王は門のそばに立ち、兵はみな、百人、千人ごとに出て行った。

18:5 王はヨアブ、アビシャイ、イタイに命じて言った。「私に免じて、若者アブサロムをゆるやかに扱ってくれ。」兵はみな、王が隊長たち全員にアブサロムのことについて命じているのを聞いていた。

18:6 兵たちはイスラエルに対抗するために戦場へ出て行った。戦いはエフライムの森で行われた。

18:7 イスラエルの兵たちは、そこでダビデの家来たちに打ち負かされ、その日その場所で多くの者が倒れ、その数は二万人となった。

18:8 戦いはこの地一帯に広がり、この日、剣

よりも密林のほうが多くの者を食い尽くした。

18:9 アブサロムはダビデの家来たちに出会った。アブサロムはらばに乗っていたが、らばが大きな榎の木の、茂った枝の下を通った。すると、アブサロムの頭が榎の木に引っ掛かり、彼は宙づりになった。彼が乗っていたらばはそのまま行ってしまった。

18:10 ある男がそれを見て、ヨアブに告げて言った。「今、アブサロムが榎の木に引っ掛かっているのを見ました。」

18:11 ヨアブは、これを告げた男に言った。「いったい、おまえはそれを見ていて、なぜその場で地に打ち落とさなかったのか。私はおまえに銀十枚と帯一本を与えたのに。」

18:12 その男はヨアブに言った。「たとえば、私の手に銀千枚をいただいても、王のご子息に手は下せません。王が私たちが聞いているところで、あなたとアビシャイとイタイに、『私のために若者アブサロムを守ってくれ』と言って、お命じになったからです。」

18:13 もし、私が偽って彼のいのちに対して事を起こしていたとしても、王には何も隠すことはできません。あなたは素知らぬ顔をなさるでしょうが。」

18:14 ヨアブは、「こうしておまえとぐずぐずしてはいられない」と言って、手に三本の槍を取り、まだ榎の木の真ん中に引っ掛かったまま生きていたアブサロムの心臓を突き通した。

18:15 ヨアブの道具持ちの十人の若者たちも、アブサロムを取り巻いて彼を打ち殺した。

ダビデは作戦を立てて命令を下しました。その中には息子アブサロムの命を守るようにとの懇願もありました。

しかしヨアブは反逆者への情けはなく、アブサロムを迷うことなく殺しました。ダビデは息子への愛を表せば反逆者を赦すことになり、ヨアブは王に忠実であれば敵に勝つことはできません。

このような混乱はダビデをはじめ、様々な人々の罪と不信仰から来ています。事態が混乱したら、迷わずにまず主に立ち返りましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのだの部分の主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

